

米奥小だより

令和8年6月24日(水)

No.12

米奥小学校 校長 北添 忠

OSDGs 授業

SDGs に関わって、「食品ロス」を少なくするための授業が2.3年学級で行われました。

SDGs はサステナブル・ディベロップメント・ゴールズの略称で、「持続可能な開発目標」と訳されます。今回の授業は地球温暖化による海面上昇や気候変動などにより、世界的な食糧不足の可能性にふれたうえで、食品ロスを減らすために自分たちができることについて考えました。示されたデータによると、食品廃棄物について、スーパーやレストランなどの事業所から出る量と各家庭から出る量はほぼ同じで、約50%ずつのことです。スーパーやレストランでは、食品ロスを減らす取り組みが始まっています。各家庭でも取り組むことで、社会全体として食品ロスを減らし、必要なところへ必要な量を供給できる社会をつくっていきましょうという授業でした。途中、クイズも出題されました。アイスクリームの賞味(消費)期限は? とか、畑のすみなどに設置してある、生ごみなどをたい肥に変えるものの名前は? などです。解答は、アイスクリームは-18℃以下で冷凍されているので賞味(消費)期限の表示はない、生ごみをたい肥に変えるものの名前はコンポスト、とのことでした。



授業の途中からは、この取り組みのキャラクターである「もぐにい」が登場し、子どもたちは大喜びしていました。授業の最後には、もぐにいちゃんからひとりひとりがノートやシールなどの記念品を受け取り、授業は終了しました。

○地教委学校訪問

6月22日(月)の午後、四万十町教育委員会の学校訪問がありました。四万十町の教育長や教育委員など12名が米奥小学校を見学に来ました。この日は午前中に水泳の授業があり、子どもたちには少し疲れた表情も見られましたが、見に来てくれている方々の前で、授業を頑張っていました。1～3年とわかあゆ学級は算数の授業を公開し、5年と6年は5.6年教室と理科室に分かれて理科の授業を公開しました。教育委員さんからは、児童が前向きに授業に取り組んでいる姿を見て、学校の雰囲気の評価していただきました。また、教育長からは保護者・地域といっしょに様々な取り組みをしていることを評価していただきました。



米奥小学校の良さは、1年から6年までの全児童がいっしょになって活動する機会が多い事、保護者・地域とのつながりの中で子どもたちが成長している事、少人数の複式学級の中で、子ども同士が高め合う授業ができることです。

これからも、米奥小学校の強みを活かした活動を続け、子どもたちの成長につなげていきます。

○たいまつ作り

6月13日(土)の午後、保護者と地域の方々が協力して松明づくりが行われました。松明のもととなる木は2月に伐り、学校に保管していましたが、今回は、その木にチェーンソーで伐り目を入れ、燃えやすくする作業でした。昨年度までに作っていたものと今回作ったものを合わせて200本近く。7月25日(土)の沈下橋夏祭りの夜、一斗俵沈下橋と清水ヶ瀬沈下橋の両側に並べられ、夏の四万十川を照らすように燃やされる予定です。

